

アクリルタワシの編み方

編みやすい!洗いやすい!乾きやすい!アクリルタワシを紹介します。



用意するもの

- ・アクリル100%の毛糸
 - ・かぎ針(7号)
- ※毛糸1玉から3~4枚のタワシが作れます。

1 最初の目を作り、引っ張って目を引き締めます。



2 鎖編みで25~27目の作り目を作ります。



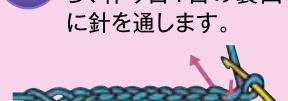
5 もう一度針に糸をかけて2目を同時に引き抜く。



4 図のように針をかけて引き抜きます。



3 ②の作り目が出来たら、作り目1目の裏山に針を通します。



6 ③~⑤を繰り返し、1段目を編み終わったところでひっくり返す。



7 立ち上がりの鎖目を1目編みする。



8 2段目の細編み(③~⑤)を進める。



10 再びひっくり返して同じように3段、4段と編みましょう。



8~9段編めば手頃な大きさになるので最後に糸を引き抜いてできあがり!

問 県河川課 ☎0742-27-7504 FAX 0742-22-1399

奈良くらし手帳

生活に密着した暮らしに役立つ情報をわかりやすくご紹介。

vol. 19

手にも環境にもやさしい!
洗剤なしでも
食器ピカピカ!

アクリルタワシで川をきれいに!

アクリルタワシは、洗い物の表面にフィットして優れた拵性を發揮します。



奈良ゆかり探訪

vol.22

知ればその国の人々に話したくなる、
外国とのゆかりをご紹介。

東大寺大仏殿の鉄骨トラス

明治期の東大寺大仏殿の修復では、当時製鐵業がさかんであった英國のSHELDON STEEL社製の鉄骨トラス(鉄骨構造のうち、小さな三角形を多数組み合わせた構造)が使われ、今も大屋根を支えています。鉄骨トラスを用いた構造の採用は、当時の先端の技術を使いました。鉄骨構造の採用は、大仏殿はもとより大修理が行われました。その要點は、軸部構造材の補強と構造の強化と屋根荷重の削減でした。その中で上層小屋組中の2本の松の大梁(長さ23m、直径1.3m)は中央で50cmほどたわんでいました。これを補強する構造材として大梁下端に高さ5mの大型トラスを添わせ、その両端を内陣柱に組み込んだ鉄骨にリベットまたは

ボルトで固定しました。

さらに桁行

方向にも振れ止めを兼ねた小型のトラス

を架け渡して屋根荷重を内陣柱に分散・伝達させれる方法が取られました。

鉄骨構造の採用は、大仏殿はも

ちろん、日本の木造伝統的建造物の歴史の中で初めてのことです。そ

の活用には細心の注意をもつてあ

たり、外側より見える部分での使

用をできる限り控え、鋼材を木部

の中に包み込むなどの方法がとら

れています。

世界最大級の木造建築の修復に

鋼材やセメントといった当時の先

端材料が使われ、今に伝わっている

ことから、伝統文化を守るために、

新しいものを受け入れてきた先人

の苦労と知恵が感じられます。



鉄骨トラス(撮影・箱崎和久)

奈良



イギリス



問 県観光プロモーション課 ☎0742-27-8051 FAX 0742-27-3510